

## 近肢連研修報告書

部会名	近肢連保育部会
実施日時	平成 28 年 6 月 11 日(土曜日) 10 時 00 分～ 11 時 30 分
場所	布施駅前市民プラザ多目的ホール
研修テーマ	第1回研修「大人が子どもの傍にいることの意味～せんせいあそんでる？」
講師等	東大阪市療育センター はばたき園 園長代理 唐渡 清美 氏
参加者数	参加者 109 名(スタッフは除く) 内訳(アンケートより) 保育士:82名、支援員:10名、PT:0名、OT:0名、看護師 1 名 その他 7 名 未記入 9 名
研修内容	<p><b>【内容】</b></p> <p>・講師ははばたき園開設当初より保育士として勤められ現在に至る。はじめにはばたき園の紹介があり親子通園を軸に療育を今まで行っている園である。今回は写真や映像を交えて子ども、特に乳幼児期の発達の経過を追っていった。生後 2 か月の乳児でも語り掛ける大人の方に視線を合わそうとしたり、大人が語り掛けると呼応するように発声するなど、コミュニケーションの原初の姿が見られた。子どもは成長とともに自分の体や物と出会うようになり、いくつもの葛藤を乗り越えて成長していく。そこには常に傍にいる大人(主には養育者)が、呼応しながら、子ども達はその大人からの働きかけを鏡として、自分の気持ちや心の在り方を形作っていく。だからこそ側にいる大人の役割が大切であると講師は考える。特に乳幼児期に、自分の活動や気持ちを尊重されてきたかどうか、大人になった時の、その人の心の在り方に大きく作用すると考える。</p> <p>また、子どもにとって遊びとは、生活そのものであり、生きる力を育てることや、人格形成、対人関係の基盤づくりに影響を及ぼすものである。通園施設に通っている子ども達は、様々な支援を必要とする子どもたちであり、遊びにくさを抱えた子どももいるが、講師は「遊べない」と大人は言うが、それははたして子どもの問題かと提言する。遊べる遊べないとは大人側の基準であり、その子が興味を持ったことに心を寄せて、子どもの内面に迫る視点が必要だとおっしゃっていた。障害を持つ子どもの体験の難しさや、少なさの背景を知り、工夫と配慮を大人が考える必要がある。そして、遊びは「流れ」が大切であり、そこが途切れると一気に面白くないものになってしまう。つまり遊びはマニュアル、筋書き通りにならないものであり、主役はあくまで子どもと保護者である。そして、職員は子どもや親が思わず遊びたくなる、雰囲気や環境を作る役割がある。同じ空間を共有しているすべての人が遊びを作る環境である。大人が本気で遊ぶ姿を見せることが大切。職員も親も、大人。大人が子どもの傍にいる意味を考えさせられる研修であった。</p> <p><b>【アンケート結果より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や映像があって、理解しやすかった。最後の親子バレーボールが楽しそうだった。</li> <li>・最近では専門職の講師に来てもらう研修が続いていたが、保育士ということで、話している内容に非常に共感した。またこのような話が聞きたい。</li> <li>・先生から失敗談を聞いて、保育士の先輩もこうやって失敗を重ねながら今に至っていることが分かった。</li> <li>・今の自分が大切にしていることで、それでいいのだと思えた。また明日から頑張りたい。</li> </ul>
課題及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内係がいてくれたおかげで、道に迷わず会場までスムーズに来ることができた。</li> <li>・会場が近くて便利であった。</li> <li>・会場に机がなく不便という声があった。</li> <li>・講義が長引き、時間通りに終わってほしいという意見があった。</li> <li>・冷房の調節ができず、寒かった。</li> </ul>

## 近肢連研修報告書

部会名	近肢連保育部会
実施日時	平成 29 年 1 月 28 日(土曜日) 10 時 00 分～ 12 時 00 分
場所	大阪発達総合療育センター 5階ホール
研修テーマ	第 2 回研修「保護者支援について」
講師等	【講師】東大阪市療育センター はばたき園 佐藤早苗 園長 【ファシリテータ】はばたき園 佐藤早苗 唐渡清美 山本元子 橋本美紀 あさしお園 大西慶子 小出裕美 三好愛恵 ふたば 水野里佳 計 8 名
参加者数	参加者 67 名(スタッフ、ファシリテータは除く) 内訳(アンケートより) 保育士:43 名、支援員:4 名、PT:0 名、OT:0 名、看護師 0 名 その他 10 名 未記入 10 名
研修内容	<p>【内容】</p> <p>①ふたばで実践している保護者支援の一つである“ママグループ”を紹介。開催に至った経緯、取り組み内容とその効果について発表する。</p> <p>②“各園での保護者支援の取り組みや課題、悩み”についてのグループディスカッションを実施。経験年数ごとにグループを編成(1～3 年、3～10 年、10～20 年、20 年～ 計 8 グループ)</p> <p>③グループごとの発表</p> <p>④はばたき園佐藤園長による総括</p> <p>グループディスカッションでは、経験年数が長いグループでは各園の運営状況や職員配置の難しさなどが話題に上り、経験の浅いグループでは保護者からの疑問・質問に即答できないことへの悩みや、保護者への対応の仕方について参加者同士が共感する場面が見られた。そして、多くのグループが抱える課題・悩みとして、母子分離型の児童デイに通う子どもが増加している事が挙げられた。低年齢から気軽に子どもを預けられる場所として重宝されているが、保護者が子どもの特性を理解できないまま預けてしまうことへの危機を感じている。そのような時代の流れの中で、親子療育の大切さや必要性を訴えることが私たちの責務と感じているという声も聞かれた。</p> <p>【アンケート結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の施設の取り組みや課題を知れる良い機会だった</li> <li>・同じ職に携わる者同士、共感し合えることが多かった</li> <li>・ディスカッションの時間がもっとあればよかった</li> <li>・経験年数ごとのグループ編成は喋りやすかった</li> <li>・親支援・親子療育の大切さ、関係づくりの大切さを感じた</li> <li>・他の施設の悩みを聞き、励まされた</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
課題及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションの時間が足りなかった</li> <li>・駅からの案内が欲しかった</li> <li>・ふたばの取り組み紹介のスライドのレジュメが欲しかった</li> </ul>